人と人 No.110

『森山に運動広場をつくったときのこと』

森山区　遠山　玄（しずか）さん

森山区の大きな行事のひとつに秋に開催されている運動会があります。その会場となっているのが「森山区民運動広場」です。運動広場ができてから行われるようになった運動会は、昨年二十回目を迎えました。

今回は、二十年程前にこの運動広場を整備するとき中心になって奔走された、当時森山区の公民館長だった遠山さんに話を聞きました。

最初に、どうして運動広場をつくろうと思ったのかということから伺いました。

まだ森山に運動広場がない頃は、区民の交流行事としてソフトボール大会をしていたそうです。遠山さんが館長になった年も例年どおり美南ガ丘小学校の校庭を借りて行う予定でした。ところが手違いがあり予定していた日に校庭が使えず、しかたなく十月下旬の開催になってしまったそうです。その日はとても寒くせっかくの行事も楽しむことができず残念な気持ちがのこってしまったそうです。そこで遠山さんは、もし森山区に広い運動場があれば、いつでも行事に使用することができ区民の交流の場として利用できるのではないかと考え、そのことを提案し、皆さんに意見を聞いたそうです。

予定地としたのは、今も運動場の隣にある神社所有の山でした。区民の間では賛否両論の意見があったので、遠山さんは、地道に話し合いをしながら意見をまとめていったそうです。そして、予定地が神社所有の土地だったため、整備にあたっての許可が必要でした。遠山さんは申請に必要な嘆願書を作成し、県会議員、市会議員の方々と共に、長野県庁に何度も足を運んだそうです。そしてようやく許可がおり整備計画がはじまります。そこで各組から一人ずつ選出してもらい建設委員会を発足させ整備をすすめていったそうです。

具体的な作業の様子を伺っていると古い家をリフォームする有名なテレビ番組を思いおこさせるような感動的な話でした。それは自分たちでできることは自分でやり、区内の企業に協力してもらい、リサイクルできるものはできるだけ利用したそうです。例えばネットを張るための支柱は有線放送でいらなくなった物を使い、トラック百台分の砂を寄贈してもらったり、トイレもほとんど寄贈とボランティアによってつくられたそうです。整地するにあたって倒した木は阪神・淡路大震災の復興建設資材として使われたということです。

遠山さんの話を聞かせていただき、区民の絆を深める場所ができるまでの当時の尽力してくださった方々の善意と労力を知ることができました。

編集委員　塩川　ひろみ

川柳

川柳浅間吟社

- 幼子に大人の本気見破られ　桜井　眞紗子
- 母の日に届いた花が包む幸　掛川　たゆ子
- 我が事の様に就活父援助　中山　紀子
- コンビニが独り身の人世話してる　荻原　栄子
- 同級会誰も欠けずに会う笑顔　土屋　正示
- 念願の表舞台に立つ不屈　小林　峰男

短歌

土笛小諸短歌会

- 友くれし淡き黄花のいよみづき　枝切り分けて佛前に供う　柳沢　つる子
- 猪苗代湖に三羽残れる白鳥は　渡れない一羽と付き合う二羽とう　依田　昭子
- 麻痺を病む夫がいつもの窓により　この夕焼けが日本一という　小野山　玲子
- 寒ごしの菜を摘む先に這いだした　地蜘蛛のにげる足の速さよ　土屋　乃里
- 病身の夫にかまけて気づかざり　夕空すいすいつばめ二、三羽　土屋　弘子
- 春おそき佐久の桜も花盛り　Kさんにつれられ花見にいでたり　三浦　幸枝